

2026年6月11日開催

株式会社理経

機関投資家説明会資料



2026年6月11日

東証スタンダード市場

証券コード 8226

© Rikei Corporation



0 1 当社グループの概要

- 1. 理経はどんな会社？ P3
- 2. 事業概要（納入先事例 BtoB） P4
- 3. 基幹事業の紹介（3セグメント） P5

0 2 決算概要（2026年3月期）

- 1. 2026年3月期・決算サマリー P8
- 2. 2026年3月期・決算サマリー
（セグメント別業績進捗） P9
- 3. 2026年3月期・決算サマリー
（セグメント別傾向） P10
- 4. 連結業績推移 P11
- 5. 連結業績推移・安全保障関連 P12

0 3 事業計画（2027年3月期）

- 1. 当社を取り巻く市場環境について P14
- 2. 事業計画（2027年3月期）対前期実績比較 P15
- 3. 事業計画（2027年3月期）対前期実績比較
（セグメント別） P16
- 4. 中期経営計画進捗状況 P17

- 5. 中期経営計画達成への施策（既存事業） P18
- 6. 中期経営計画達成への施策（NEXT事業） P19

0 4 宇宙ビジネスについて

- 1. これからの注力事業 P21
- 2. 日本が進める「宇宙戦略」とは？ P22
- 3. 理経がかかわる宇宙ビジネスとは？ P23
- 4. 理経の宇宙ビジネスの進捗状況①②③ P24

0 5 安全保障関連事業について

- 1. 当社グループの安全保障関連ビジネス事業の範囲 P28
- 2. 業績拡大の要因 P29
- 3. 当社グループに関連する防衛予算推移 P30
- 4. 安全保障関連ビジネスとは何をやっているのか？ P31


0 6 株主還元／配当について


- 1. 株価推移 P33
- 2. 株主還元／配当方針 P34

APPENDIX

01 当社グループの概要

お客様の課題を一緒に解決する、**ITおよびエレクトロニクス分野**の技術商社

創業 
1957年
 第70期
 (2027年3月期)

上場区分 
8226
 東証スタンダード
 1単元の株式数：100株

資本金 
34億2,691万円

決算期
3月

拠点数
 本社 **新宿** 
 他国内 **7** 拠点

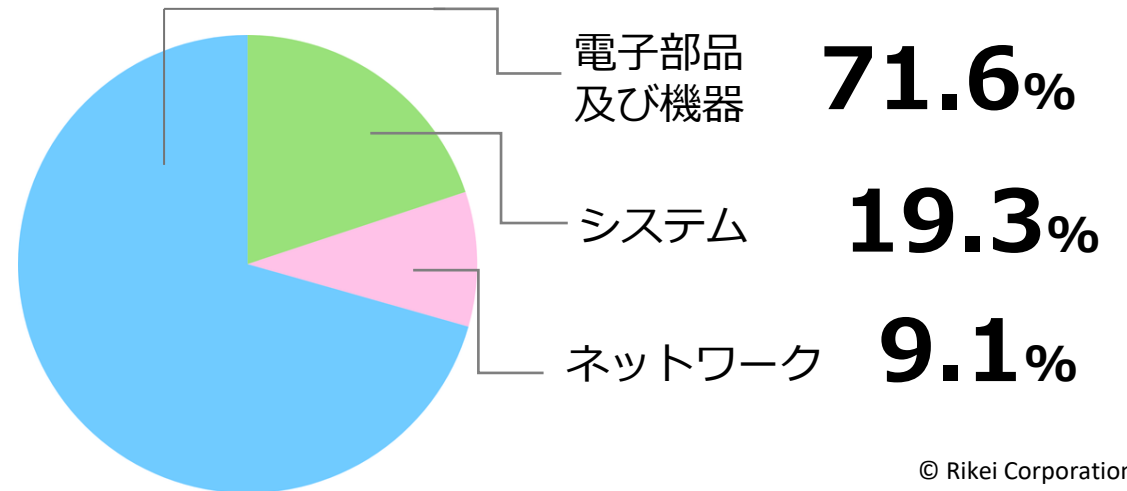
グループ会社
3 社 


連結売上高
195億3,500万円


連結営業利益
12億3,600万円

セグメント別売上高（連結）比率

2026年3月期時点



従業員数
 単体 **137** 名 
 連結 **179** 名

取り扱いメーカー
 海外 **72%** 
 国内 **28%**

放送局/通信会社等

- ・映像配信システム
- ・衛星通信地上局受信アンテナ設備
- ・衛星通信関連商材

製造業

- ・機能的樹脂接着剤
- ・光ファイバ関連商材
- ・3D CAD
- ・計測検証システム
- ・車両開発用VR

自治体/官庁等

- ・統合防災情報配信システム(Jアラート)
- ・避難体験VR
- ・ITインフラ基盤構築

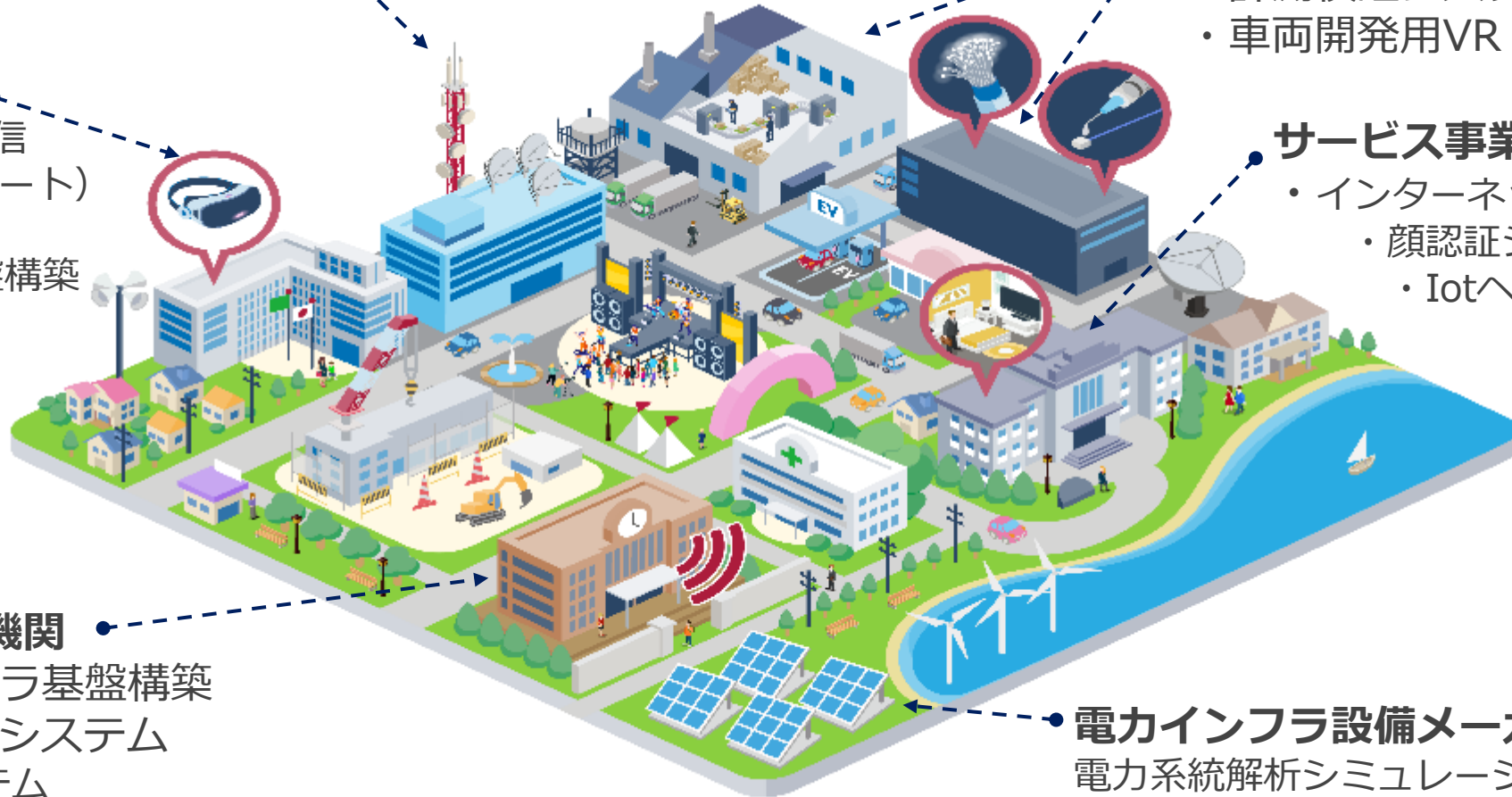
サービス事業者

- ・インターネットゲートウェイ
- ・顔認証システム
- ・Iotヘルスケア関連

大学/教育機関

- ・ITインフラ基盤構築
- ・統合認証システム
- ・教務システム

- ・電力インフラ設備メーカー
- 電力系統解析シミュレーション



電子部品及び機器

売上構成比 71.6%

<p>エンジン国外修理</p>	<p>ヘリコプター用 フライトシミュレータ</p>	<p>ヘリコプター用 給油ホース</p>	<p>防弾板</p>	<p>チャフ・フレア</p>	<p>機能性接着剤</p>
					<p>光ファイバ給電システム</p>

出典：海上自衛隊HP、平成28年版防衛白書

システム

売上構成比 19.3%

<p>システム基盤構築</p>	<p>フライトシミュレータ用 ソフト開発</p>	<p>AI開発環境 インフラ構築</p>	<p>顔認証／外観検査 健康指標値測定システム</p> <p>DoHISe</p>	<p>データ解析・検証 Manitoba社PSCAD V5</p>
-----------------	------------------------------	--------------------------	---	---------------------------------------

ネットワーク

売上構成比 9.1%

<p>宇宙ビジネス 低軌道衛星用受信局</p>	<p>低軌道衛星用部材</p>	<p>防災情報配信システム／防災ネットワーク</p>	<p>放送通信ネットワーク 長距離無線ネットワークシステム</p>
-----------------------------	-----------------	----------------------------	---------------------------------------

※売上構成比は2026年3月期

代表取締役社長 小柳 誠



1958年8月1日生まれ
出身地：兵庫県小野市

経歴

- 1982年 4 月 当社入社
- 2000年 4 月 当社サテライトコミュニケーション部長
- 2005年 7 月 当社執行役員
- 2012年 4 月 当社事業統括副本部長、海外現地法人統括、情報通信システム営業部担当
- 2012年 6 月 当社取締役
- 2013年 4 月 当社防災情報システム営業部担当、部品機器営業部担当
子会社 Rikei corporation 香港社長
- 2014年 4 月 当社特機部担当
- 2017年 4 月 当社新規事業推進室担当、新規事業推進室長
11 月 子会社（株）エアロパートナーズ 取締役（兼任）
- 2020年 4 月 当社海外事業統括、海外事業推進室担当
- 2021年 4 月 当社海外事業推進室長、次世代事業開発部担当、先端技術ラボラトリ担当
- 2022年 4 月 当社海外事業統括補佐
4 月 子会社（株）エアロパートナーズ代表取締役社長/エアロパートナーズアメリカCEO（兼任）
- 2023年 4 月 当社海外事業推進室担当
- 2024年 4 月 当社常務取締役（現任）
- 2026年 4 月 当社事業統括本部長（現任）
- 2026年 5 月 子会社（株）エアロパートナーズ代表取締役社長/エアロパートナーズアメリカCEO（退任）

座右の銘

同じ性格の人たちが一致団結しても、その力は和の形でしか増やせない。

異なる性格の人たちが団結すれば、積の形で大きくなる。～西堀栄三郎（第一次南極越冬隊隊長）～

02 決算概要（2026年3月期）

➤ 4期連続 **増収増益** を達成

売上高
195 億円
 前年比↑4.3%

営業利益
12 億円
 前年比↑11%

営業利益率
 26年3月期 **6.3%**
 25年3月期 6.0%
 24年3月期 4.7%
 23年3月期 2.1%

ROE
 26年3月期 **13.1%**
 25年3月期 13.0%
 24年3月期 8.3%
 23年3月期 1.5%

① 2023年3月期より4期連続増収増益

- ・世界情勢のマイナス要因を上手く回避し、好調な市場を的確にとらえた1年
- ・2023年から進めてきた着実な「稼ぐ力」の強化の結果

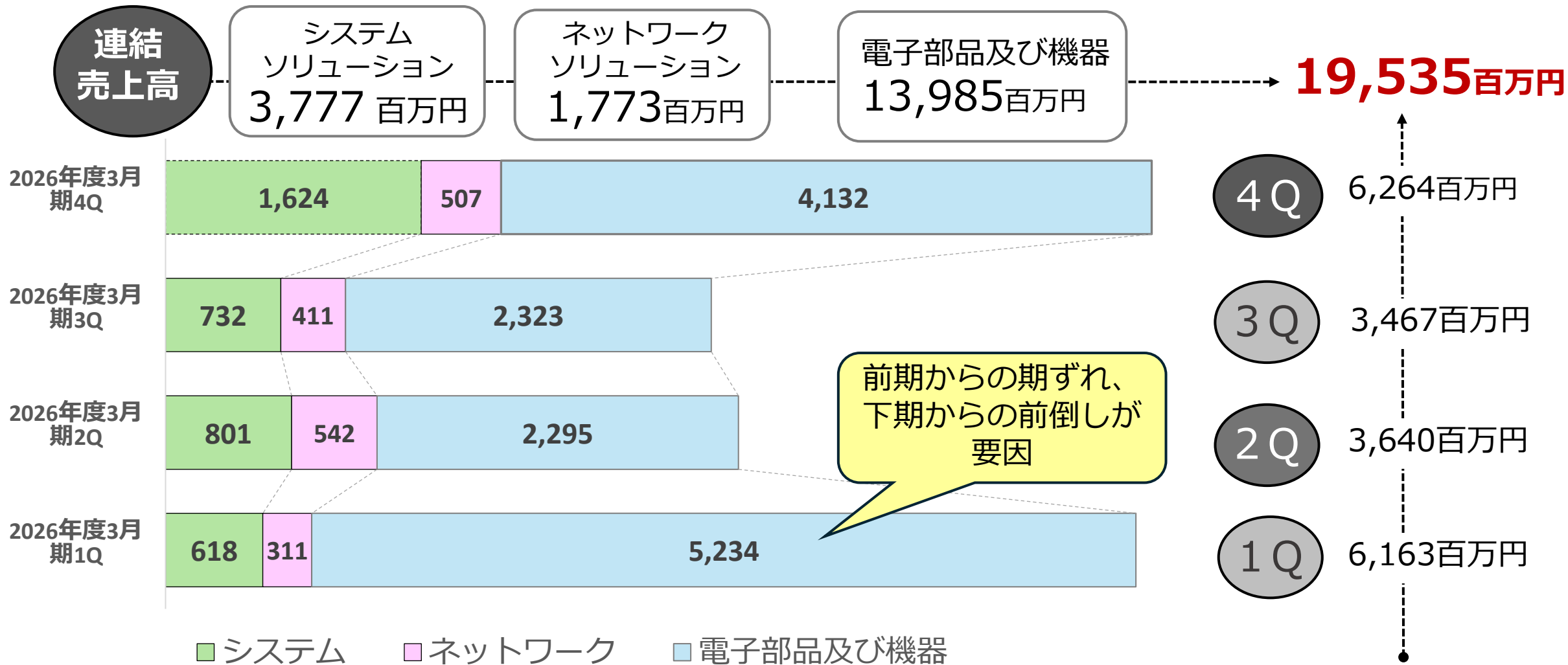
② 3年目中期経営計画(2028年3月期)の前倒し数値達成

2028年3月期	中計目標値	2026年3月期 達成度
売上高	202億円	△
営業利益	8.6億円	◎
経常利益	8.53億円	◎
当期純利益	5.18億円	◎
ROE	8.8%	◎

③ 株主還元 2024年3月期より4期増配

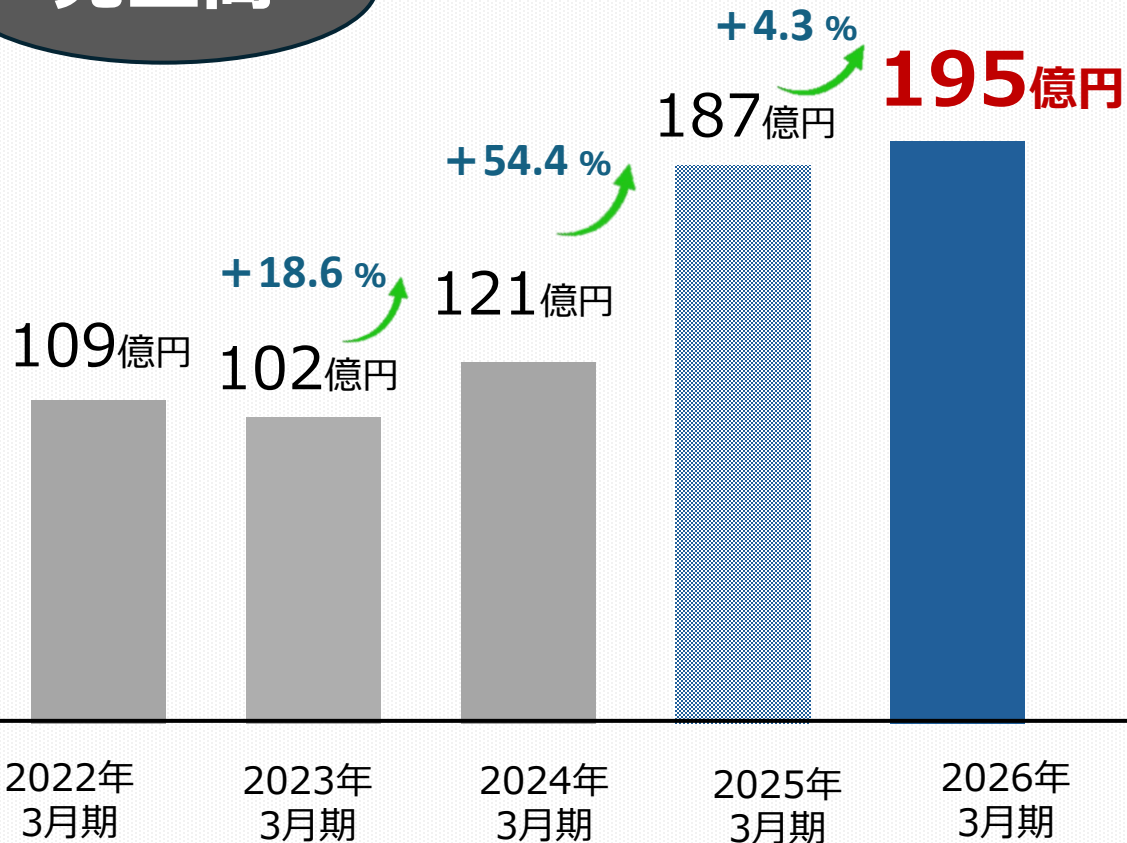
2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
3円	5円	6円	7円

(単位：百万円)		1Q実績	2Q実績	中間実績	3Q実績	4Q実績	2026年3月期 通期実績	前年同期比 (通期)
システム ソリューション	売上	618	801	1,420	732	1,624	3,777	1.3%
	営業利益	▲44	▲1	▲43	▲52	278	183	574.1%
ネットワーク ソリューション	売上	311	542	854	411	507	1,773	▲0.6%
	営業利益	▲58	32	▲28	▲16	61	17	▲81.5%
電子部品 及び機器	売上	5,234	2,295	7,529	2,323	4,132	13,985	5.9%
	営業利益	339	152	491	90	454	1,036	4.2%
合 計	売上	6,163	3,640	9,804	3,467	6,264	19,535	4.3%
	営業利益	236	183	419	21	795	1,236	11.0%

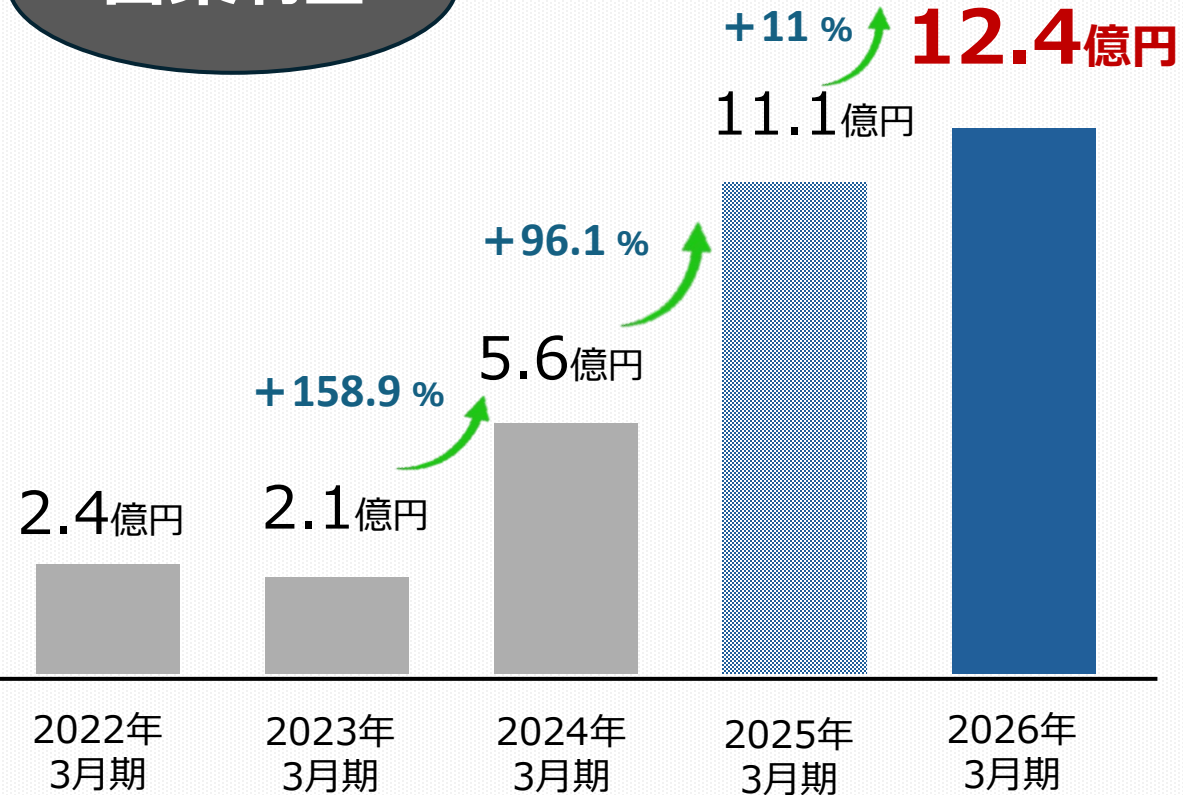


2024年度より増収増益

売上高

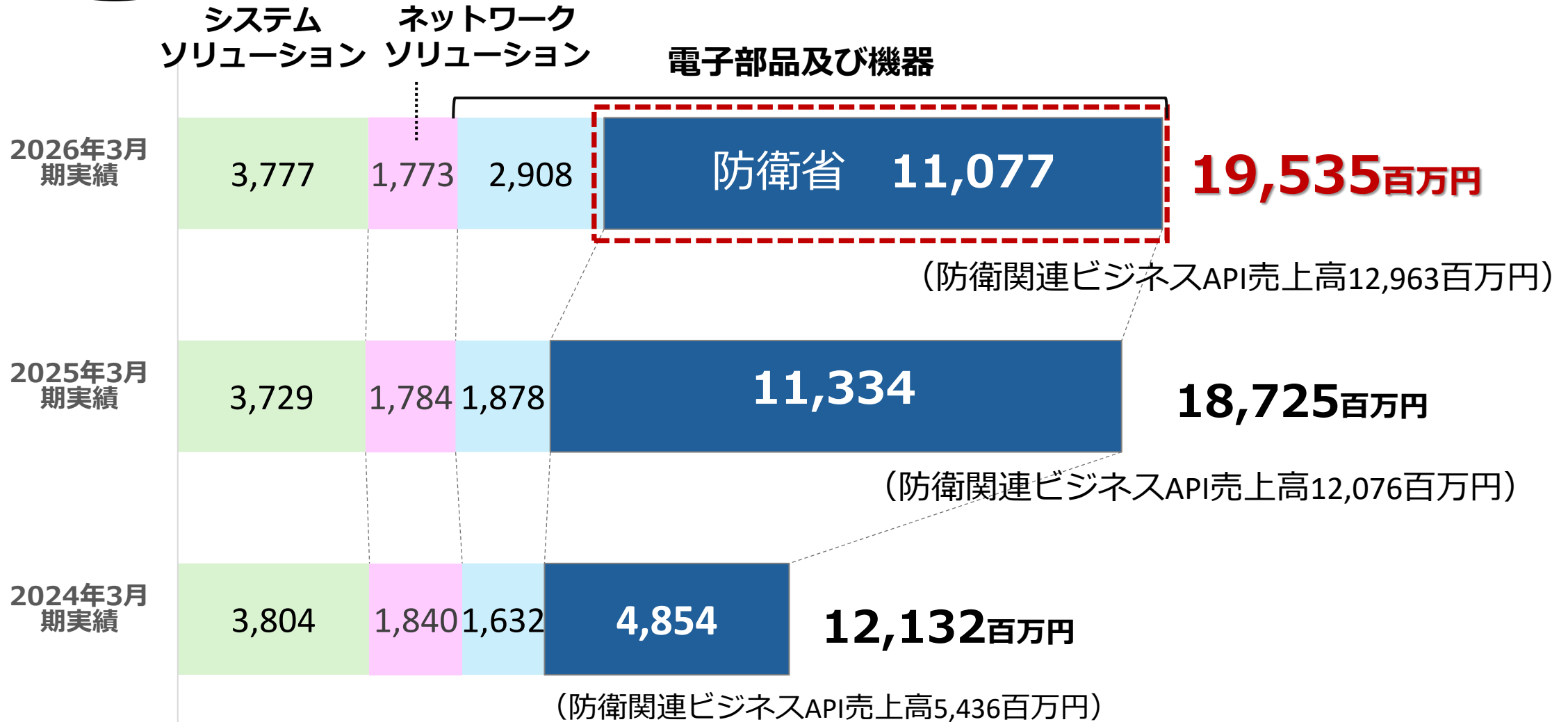


営業利益



売上高

✓ 2024年3月期より、“電子部品及び機器”の“防衛関連ビジネス”が大きく伸長



03 事業計画（2027年3月期）

① 防衛関連の懸念

- ・ 米国/イラン紛争により、米国での部品調達、修理が遅延傾向
- ・ ロシア/ウクライナ紛争で調達要求内容に変化

② 人的資本への対応

- ・ 人材確保の難しさ（多様化での人材採用、ベースアップ）
- ・ 従業員への教育と健康維持（リスクリング、健康経営で充実化）

③ 為替変動（円安傾向）、サプライチェーン

- ・ 仕入原価高騰への対応（販売価格への反映検討）
- ・ 仕入先の経営体制の常時確認、仕入先多様化の対応

これらを反映し70期計画を策定

単位：百万円	2025年 3月期 実績	2026年 3月期 実績	2027年 3月期 見込	増減
売上高	18,725	19,535	18,900	▲635
営業利益 (営業利益率)	1,114 (5.9%)	1,236 (6.3%)	740 (3.9%)	▲496
経常利益 (経常利益率)	1,019 (5.4%)	1,078 (5.5%)	700 (3.7%)	▲379
親会社株主に 帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	661 (3.5%)	746 (3.8%)	420 (2.2%)	▲326

■ 2026年実績より2027年見込が売上/利益減と想定する理由

①エアロパートナーズ社の安全保障関連事業が地政学リスクの影響により、納期確保が不透明であること。一部商材の計画の後ろ倒し等を想定

②人的資本の強化
(ベースアップ、人材積極採用、リカレント教育等の充実化)

単位：百万円		26年3月期 実績	27年3月期 通期見込 5月13日開示	増減
売上高		19,535	18,900	▲635
セグメント別	システムソリューション	3,777 ...➡	3,750	▲27
	ネットワークソリューション	1,773 ...➡	1,900	+127
	電子部品及び機器	13,985 ...➡	13,250	▲735
営業利益 (営業利益率)		1,236 (3.9%)	740	▲496
経常利益 (経常利益率)		1,079 (3.7%)	700	▲379
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)		746 (2.2%)	420	▲326

セグメント別の状況

- システムソリューション
一部事業再構築により減額
- ネットワークソリューション
前期からの期ズレ案件の今期売上を見込む。
- 電子部品及び機器は、
エアロパートナーズ社の安全保障関連事業が地政学リスクの影響により、納期確保が不透明であること。
一部商材の計画の後ろ倒し等を想定

主要因は安全保障関連事業

単位：百万円	2026年 3月期 中計計画値 (中計1年目)	2026年 3月期 実績	2027年 3月期 中計計画値 (中計2年目)	2027年 3月期 見込	中計2年目と 見込の ギャップ	2028年 3月期 中計計画値 (中計3年目)
売上高	19,600	19,535	19,800	18,900	▲900	20,200
営業利益	800	1,236	830	740	▲90	860
経常利益	770	1,078	823	700	▲123	853
親会社株主に 帰属する当期純 利益	460	746	492	420	▲72	513
ROE	8.2%	13.1%	8.5%	7.0%	—	8.8%

➤ 理経単体の「稼ぐ力」の増強

■ システムソリューション

- ・ 宇宙関連ビジネス商材の拡充（設計、製造、部品管理）
- ・ スtockビジネスの増強（サブスクビジネス、継続運用保守）
- ・ 営業体制の強化（組織再編）、技術支援体制の強化（資格取得の推奨、若手育成）

■ ネットワークソリューション

- ・ 宇宙関連ビジネス商材の拡充（地上アンテナ設備国産化）
- ・ 商材の拡充／利益ベースの底上げ
- ・ 進捗管理体制の強化、効率化

■ 電子部品および機器

- ・ 宇宙関連ビジネス商材の拡充（事業領域の拡大／パートナー企業との連携事業）
- ・ 既存顧客への商材の拡充化
- ・ AIデータセンター需要拡大に伴うファイバー関連事業ビジネスの拡大

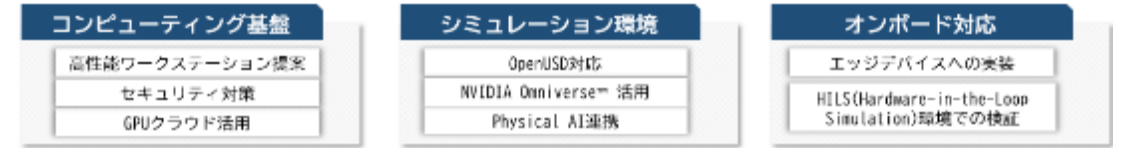
宇宙ビジネス事業推進

3つの事業セグメントの連携強化による宇宙市場での提供価値拡大を目指す



AI開発環境インフラ構築

AI開発に必要なシミュレーション環境構築をワンストップで支援



例) 外観検査AI用データ生成の支援



© Rikei Corporation 24

各事業区分別進捗 期待する事業

電子部品および機器		システムソリューション		ネットワークソリューション	
市場動向		市場動向		市場動向	
◎ 導電性機能接着剤	☀️晴天	◎ 文教	☀️晴天	映像配信システム	🌧️雨
光ファイバー給電	濃霧	◎ 製造業	曇りのち晴れ	◎衛星通信システム	曇りのち晴れ
◎ 衛星搭載商材	曇りのち晴れ	◎ VR関連	☀️やや曇り	新規市場	市場動向
防衛関連(API)	☀️晴天	IoTヘルスケア	曇りのち晴れ	◎ 宇宙ビジネス	曇りのち晴れ
		◎ SaaS(NWS)	☀️晴天		

04 宇宙ビジネスについて

中期経営計画 2025-2027

- 基幹事業 ➡ 収益基盤強化
- **新規事業 ➡ NEXT事業の創出**
- 会社拡大への事業投資 (M&A)

持続性ある成長を続けられる企業に

2030

宇宙ビジネスへ参画 2025始動

- 低軌道衛星の開発／衛星追尾地上アンテナ設備設置
- 国内アンテナ開発企業と業務提携
- JAXA宇宙戦略基金に参画検討
- 放送衛星用アンテナ設備導入プロジェクト参画



(参考) 宇宙戦略基金

令和5年度 (2023年度) 補正予算3,000億円

内訳：文科省1,500億円、経産省1,260億円、総務省240億円

令和6年度 (2024年度) 補正予算3,000億円

内訳：文科省1,550億円、経産省1,000億円、総務省450億円

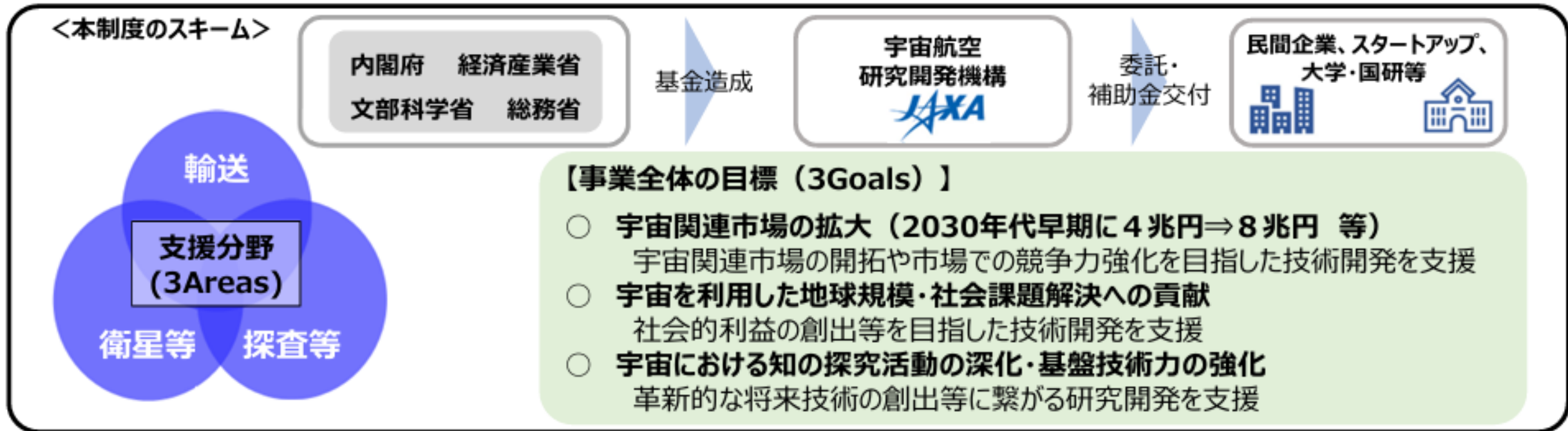
令和7年度 (2025年度) 補正予算2,000億円

内訳：文科省950億円、経産省740億円、総務省310億円

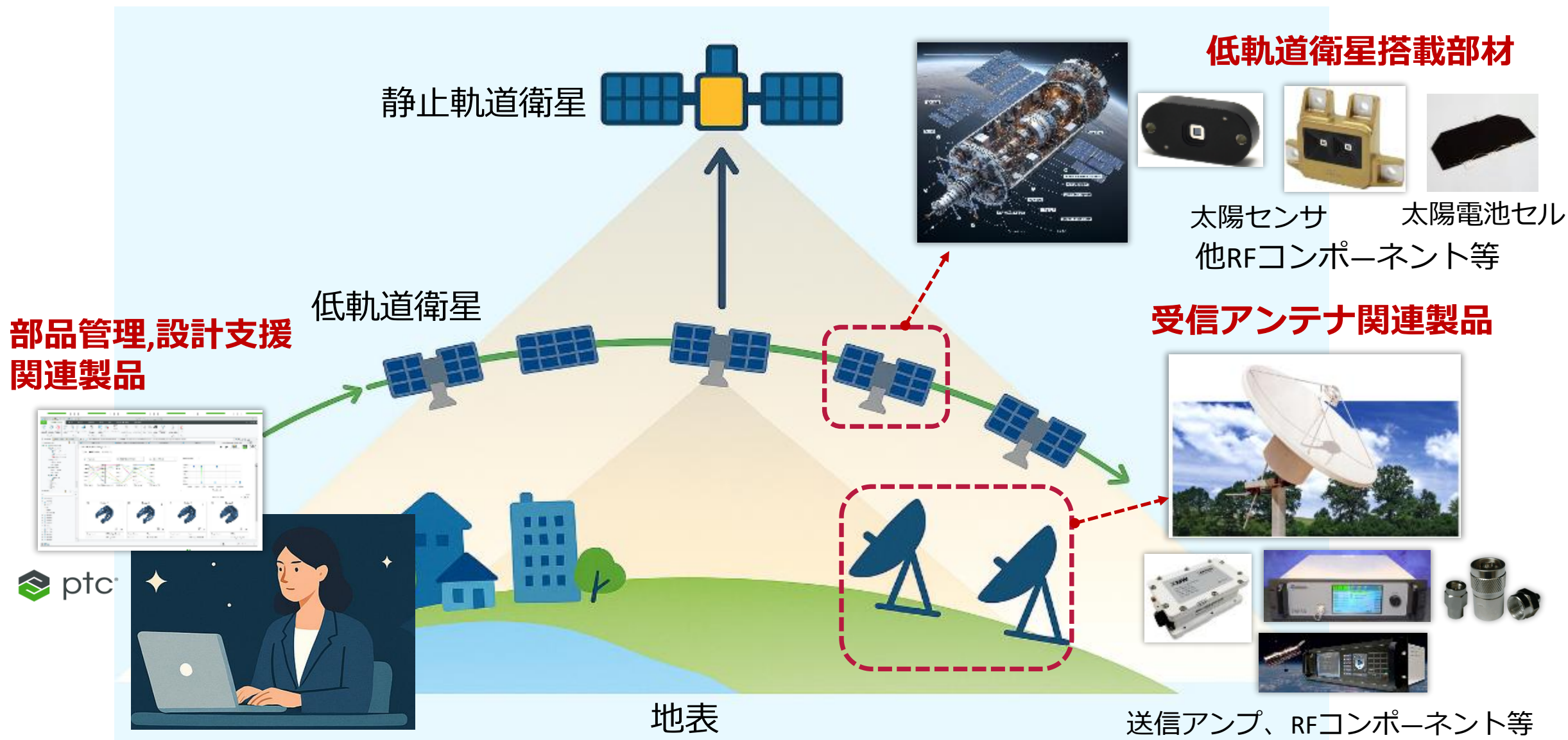
【指針】 国の安全保障と民間宇宙産業の強化を行い、
国際競争力につながる特色ある技術の獲得・活用や産業の集積を目指していく

【対策】 「『強い経済』を実現する総合経済対策」（令和7年11月21日閣議決定）がなされ、
「宇宙戦略基金」総額1兆円規模を実施

【資金のスキーム】 令和5年（2023年度：第一期）から毎年補正予算3000億円を投じ、
令和7年（2025年度：第三期）は2000億円を充当



出典：内閣府宇宙開発戦略推進事務局「宇宙戦略基金第三期について（全体概要）2026年2月」



2026年5月26日PRリリース

**理経、宇宙共創プログラム「MUGENLABO UNIVERSE」に参画
～多様な企業との共創により、宇宙技術の社会実装と新規事業を創出～**

株式会社理経（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：猪坂 哲、以下理経）は、KDDI株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 CEO：松田 浩路、以下KDDI）が推進する宇宙領域のオープンイノベーションプログラム「MUGENLABO UNIVERSE」にパートナーとして参画しました。

40年にわたり衛星通信・宇宙関連機器の提供を通じて実績を積み重ねてきた理経は、本参画を通じてスタートアップや異業種企業との共創を加速し、宇宙技術の社会実装と新たな事業創出を目指します。



2026年5月27日PRリリース

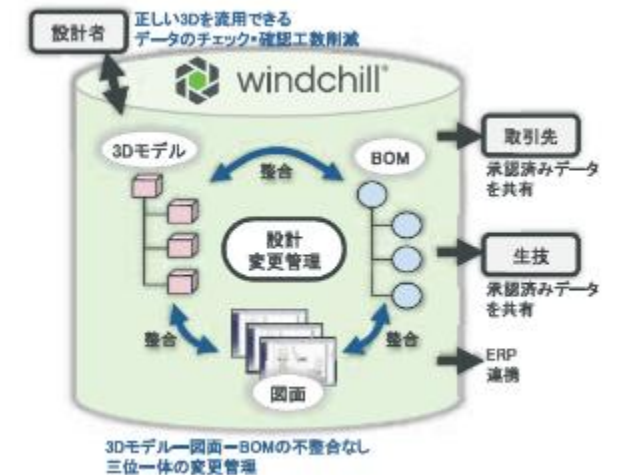
**理経が販売、構築する製品ライフサイクル管理ソリューション「Windchill」をSynspective社が採用
～衛星事業の成長を見据え、設計・開発段階から製造基盤を強化～**

Synspective社は、SAR（合成開口レーダー）衛星(*)の開発、製造、運用から衛星データの提供までを行う企業で、現在は年間12機の衛星を製造しています。

継続的な生産規模の拡大を計画されている成長フェーズにおいて、SAR衛星の開発から製造、運用、管理に至る製品ライフサイクル全体を俯瞰し、将来の事業拡大に柔軟に対応できる製造基盤を構築するため、本製品を採用いただきました。

複雑化、高度化する衛星システムの製品構成や設計情報を一元的に管理し、組織や拠点を横断した情報共有や活用を可能にする「Windchill」の導入に伴い、衛星システム開発の業務効率を向上することと「Windchill」と親和性の高い「Creo」への切り替えを行います。

(*)SAR衛星：天候や昼夜に影響されず、合成開口レーダーを使い地表の状態を解析して画像化。災害対策やインフラ監視のほか、多様な領域で活用されている。



理経、第3回SPEXAに出展参加レポート

宇宙産業は“未来”ではなく、“現在進行中の産業”



『第3回SPEXA』はロケット・人工衛星からデータ活用まで、宇宙ビジネスの“川上～川下”すべてが集まる日本最大級の展示会。2026年の会期は、5月27日（水）～29日（金）の3日間。出展は、約300社規模（過去最大級）／カンファレンス40本以上と昨年より一気にスケールアップしました。今回は、宇宙産業＝研究ではなく、あちこちで「営業」が行われ、宇宙ビジネスの“実用化フェーズ”を体感できる展示会となりました。宇宙産業は“未来産業”ではなく、“現在進行中の産業”になりつつあります。理経も2026年を足掛かりの年として、宇宙ビジネス事業を進めてまいります。

SPEXA 2026 公式HPより YouTube
「2026年5月27日初日の様子」はこちらから▶▶▶



05 安全保障関連事業について

防衛関係費予算／装備品等の維持整備費

自衛隊が抱える課題

弾道ミサイル防衛 (BMD) のためのミサイルは

60%のみ

弾薬不足により...

十分に能力が 発揮できない...

例えば...BMD用ミサイルの充足率は60%
つまり
100発の弾が必要なのに
60発分しか
用意できていない...

装備品があるのに...

部品不足

部品不足により...

装備品が 動けないまま...

例えば...
一般の飛行機や自動車のように
装備品にもメンテナンスが必要
その部品が足りないことで
メンテナンスができず動けないままに...

工事が必要な旧耐震基準の自衛隊施設が

約9,900棟

国を守る自衛隊の施設が...

防護や耐震の 性能が弱い...

例えば...
災害に対処する
自衛隊の施設が
地震で崩れるおそれも...

過去10年で応募者が

3割減少

少子化により...

人材確保が 難しい...

例えば...
国防を担う人材を
確保することが
困難となるおそれ...

国を守るための最低限の活動が、ままたまらない現状...

この資料は国民の皆さまに、2022年12月に策定された戦略3文書についてわかりやすい表現で説明したものになります。詳細は、防衛省のWEBサイト <https://www.mod.go.jp/j/policy/agenda/guideline/index.html> をご覧ください。 p.3

令和8年度概算要求 ～配分～

○ 来年度も、今年度に引き続き、**15区分の配分額の中できめ細やかに進捗状況を管理**

（契約ベース）

区 分	分 野	5年間の総事業費	令和5年度事業費	令和6年度事業費	令和7年度事業費	令和8年度概算要求
スタンド・オフ防衛能力		約 5兆円	1兆4,130億円	7,127億円	9,390億円	1兆246億円
統合防空ミサイル防衛能力		約 3兆円	9,829億円	1兆2,284億円	5,331億円	5,173億円
無人アセット防衛能力		約 1兆円	1,791億円	1,146億円	1,110億円	3,128億円
領域横断作戦能力	宇宙	約 1兆円	1,529億円	984億円	2,119億円	1,385億円
	サイバー	約 1兆円	2,363億円	2,026億円	2,615億円	2,468億円
	車両・艦船・航空機等	約 6兆円	1兆1,763億円	1兆3,391億円	1兆1,385億円	1兆13億円
指揮統制・情報関連機能		約 1兆円	3,053億円	4,248億円	3,852億円	3,875億円
機動展開能力・国民保護		約 2兆円	2,396億円	5,653億円	4,545億円	1,974億円
持続性・強靱性	弾薬・誘導弾 (他分野も含め約5兆円)	約 2兆円	2,124億円 (他分野も含め8,283億円)	4,015億円 (他分野も含め8,249億円)	2,876億円 (他分野も含め7,675億円)	2,583億円 (他分野も含め8,492億円)
	装備品等の維持整備費・可動確保 (他分野も含め約10兆円)	約 9兆円	1兆7,930億円 (他分野も含め2兆355億円)	1兆9,094億円 (他分野も含め2兆3,367億円)	1兆7,696億円 (他分野も含め2兆2,247億円)	1兆7,492億円 (他分野も含め2兆1,472億円)
	施設の強靱化	約 4兆円	4,740億円	6,313億円	6,953億円	1兆636億円
防衛生産基盤の強化		約 0.4兆円 (他分野も含め約1兆円)	972億円 (他分野も含め1,409億円)	830億円 (他分野も含め920億円)	964億円 (他分野も含め996億円)	723億円 (他分野も含め1,010億円)
研究開発		約 1兆円 (他分野も含め約3.5兆円)	2,320億円 (他分野も含め8,968億円)	2,257億円 (他分野も含め8,225億円)	2,189億円 (他分野も含め6,387億円)	3,512億円 (他分野も含め7,790億円)
基地対策		約 2.6兆円	5,149億円	5,138億円	5,361億円	5,511億円
教育訓練費、燃料費等		約 4兆円	9,437億円	9,118億円	7,945億円	8,529億円
合 計		約 43.5兆円	8兆9,525億円	9兆3,625億円	8兆4,332億円	8兆7,248億円

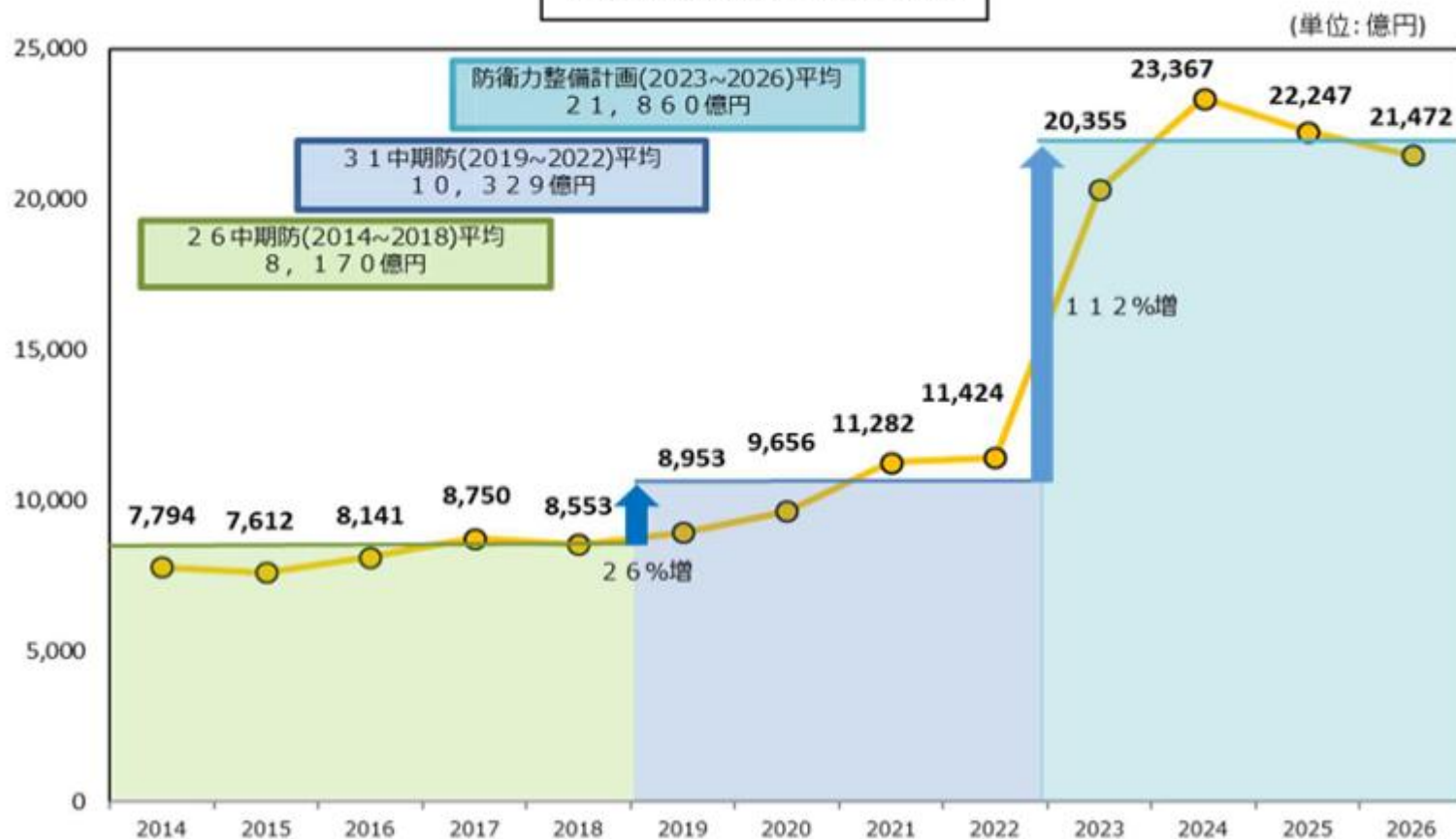
総額
2兆1千472億円

□ ※ 計数については、四捨五入によっているので計と符合しないことがある。

装備品等の維持整備 約2兆1,472億円(他分野を除くと約1兆7,492億円)

- ▶ 部品不足による非可動を解消し、保有装備品の可動数の最大化及び部隊能力の維持向上を図るため、十分な部品を確保し、確実な整備を行う経費を確保

装備品等の維持整備費の推移



国内外の整備体制について 現在の主軸事業

■ 国内整備 修理完了まで 4年程度

- ①修理に関する事前確認・検査工程、必要修理部品調達で納期が長期化
- ②対応技術者の高齢化で整備人材不足
- ③国内大手製造会社は、収益性が高い新規プロジェクトに人材シフト

■ 海外整備 修理完了まで 1～2年程度

- ①整備実績、修理部材のストック、対応技術者が豊富（製造メーカーとして）
- ②稼働実機数が多く、整備体制が充実（米軍需要も有り）



ターボシャフトエンジン

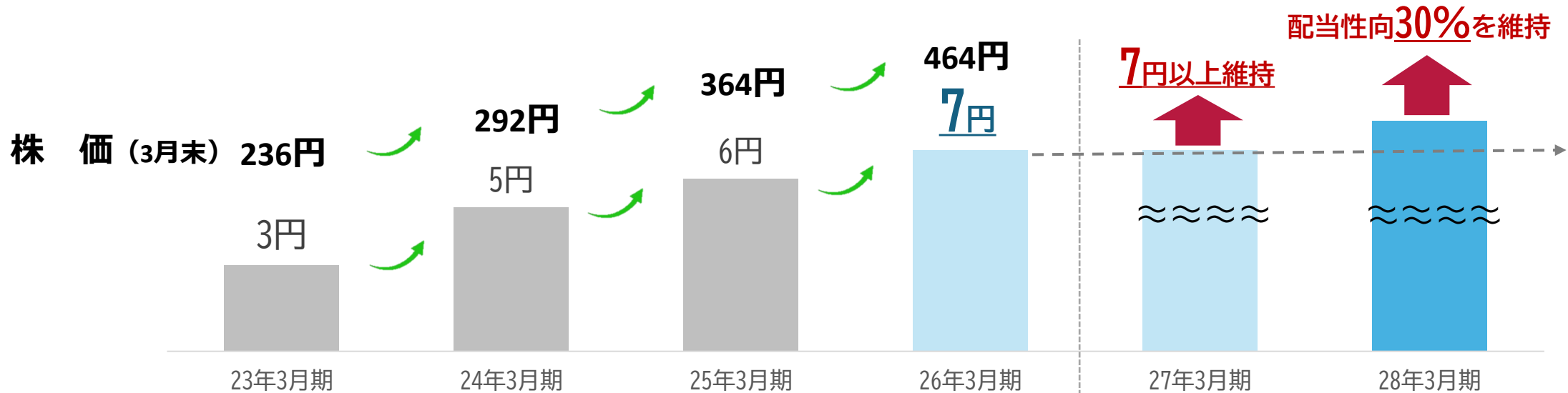
整備体制、納期により海外修理へ！

	人 材	部品・部材	納 期
国 内	▲	×	4年
海 外	○	◎	1～2年

06 株主還元／配当について



- ・株主の皆さまへの利益還元は経営上の重要課題と認識
- ・中長期的な事業展開と経営体質強化のための内部留保を確保しつつ、安定配当として配当性向30%とする
※ただし、7円以上の配当を維持する
- ・ROE8.0%以上を維持する



配当性向	67.8%	19.8%	13.7%	14.2%
ROE	1.5%	8.3%	13.0%	13.1%
PBR	0.8倍	0.92倍	1.04倍	1.16倍

※創立70周年として記念配当を検討中

中期経営計画

**株式会社理経
公式WEBサイト IR情報**



**株式会社理経
2026年3月期
業績ハイライト**



- ・本資料は、当社グループの業績及びグループの経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社の株式の購入や売却を勧誘するものではありません。
- ・本資料の内容には、将来の計画や業績に関する見通し等の情報を掲載しておりますが、これらの情報は資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。そのため、その実現や達成を確約するものではなく、また今後、予告なしに変更される場合があります。
- ・本資料利用の結果で生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。また、本資料の複製、転送等を行わないようお願いいたします。

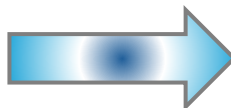
APPENDIX

展示品 1

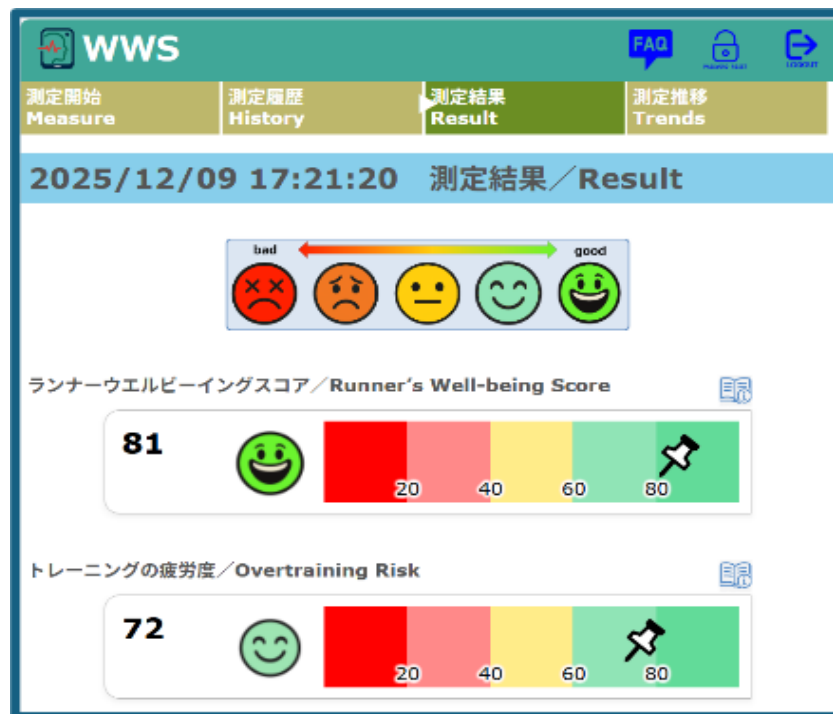
「WWS（Workout Well-Being Scorer）」非接触で日々の健康状態の計測・記録

WWS（WorkoutWell-BeingScorer）は、スマートフォンのカメラで顔を撮影するだけで、血流の変化をAI解析し、心拍数や疲労度などをスコア化するウェルネスツールです。日々のコンディション把握を通して、イベント参加者の無理のない活動を支援し、安全な大会・イベント運営にも貢献します。

① スマートフォンのカメラで撮影



② あなたの心拍数等がスコアに！



展示品2「ロボットアーム操作」

ロボットアームを遠隔操作し、動作データを自動収集することができる？

→実際にモノを作らずに「仮想空間」で作業を行い、実機を動かすことが出来る

工場等の大幅なコスト削減に寄与する技術

<例えば> 工場で、ロボットアームを使ったの製造レーンを作るには？

従来

現場確認 → 実機停止 → 手動ティーチング → 実機確認 → 修正 → 再確認 → 再調整 → 再テスト → 本番投入

実機で試行錯誤を繰り返す 実機確認のコスト増！時間増！

Sim2Real

仮想環境構築 → 仮想空間で動作作成 → シミュレーション検証 → 実機展開 → 現場で調整 → 本番

実機作成無しでコスト減！作成の時間短縮！

次世代事業開発部NOTEより

【TECHblog】国際ロボット展 Isaac SimからFranka Robotics FR3実機へのSim2Real

実現【展示内容まとめ】



展示品 3

「Varjo社製 高精細VR/MRゴーグル体験」



※Varjo社HPより

航空機用シミュレーションソフトを、NVIDIA社製RTX5090グラフィックボード搭載PCと、Varjo社製の高精細VR/MRゴーグルを組み合わせ利用することにより、高精細なVR/MR利用の、航空機コックピット搭乗体験ができます。



※Varjo社HPより